

「町田市未来都市研究 2050」

町田市民による「自慢・誇りの施設、事柄、活動」は多様化 ワークショップで得たシナリオを元に、公表に向けて検討中

町田市未来づくり研究所と東京都市大学総合研究所未来都市研究機構（以下、未来都市研究機構）は共同で、2050 年の未来の町田市について、テクノロジーの進化による都市や市民への影響を踏まえ、シナリオプランニングという新たな手法を用いた共同研究「町田市未来都市研究 2050」に取り組んでいます。取り組みの進捗状況についてご報告します。前回の進捗（2020.09.26 公開）については下記 URL をご覧ください。

<https://www.city.machida.tokyo.jp/shisei/miraidukurikenkyujo/2050kenkyu.files/20200925release.pdf>

◆2021 年 2 月までの進捗報告◆

今年度の研究活動は、新型コロナウイルスの影響もあり、web 会議システムを活用し、オンライン上で行っています。町田市未来づくり研究所および未来都市研究機構の研究メンバーは、オンライン上で定例ミーティングを月 2 回隔週で実施し、研究について議論してきました。

これまでの主な研究活動としては、①既存データ分析、②郊外型都市における住民意識リサーチ(以下、ブランド調査)、③町田市現地視察、そして未来シナリオを検討するための PEST 分析に基づく④専門家ヒアリング調査、未来シナリオ検討のための⑤ワークショップ(計 2 回)、⑥日本全体のマクロ・トレンド、⑦町田市ベースシナリオおよび⑧町田市未来シナリオ 2050 の検討を実施してきました。

本報告では、②ブランド調査、③町田市現地視察、⑤ワークショップについて、その一部をご紹介します。

1. 町田市における自慢・誇りの施設、事柄、活動 ～ブランド調査より

町田市および比較都市の各市民におけるシビックプライドに着目して、町田市の特色（伸ばすべき点、伸ばしえる潜在的な点）を抽出するために、町田市および郊外型の比較 3 都市（八王子市、所沢市、柏市）¹⁾ の合計 4 自治体の市民に対して、インターネット調査法によるブランド調査²⁾ を実施しました。

前回の進捗では、まちの印象等についてご紹介しましたが、今回は、各郊外型 4 都市における強み、各市民に居住する都市の自慢・誇りの施設、事柄、活動について、自由記述で 3 つ

まで回答してもらった結果についてご紹介いたします。

すべての自由記述データについて、テキストマイニング分析を実施してみると、郊外型都市の特徴としては「自然」「商業施設」「交通アクセス」の3つがあげられます。

図表1 自慢・誇りの施設、事柄、活動 【自由記述されたキーワードを集計】

【町田市民】 n=996				【八王子市民】 n=1,321			
順	キーワード（集約化後）	件数	%	順	キーワード（集約化後）	件数	%
1	自然	101	10.1%	1	高尾山	353	26.7%
2	グランベリーパーク	59	5.9%	2	自然	186	14.1%
3	緑・緑地	47	4.7%	3	八王子祭	63	4.8%
4	交通アクセス	42	4.2%	4	公園	46	3.5%
5	町田 栗師池公園	42	4.2%	5	緑	46	3.5%
6	FC町田ゼルビア	35	3.5%	6	都会と田舎のバランス	40	3.0%
7	町田リス園	34	3.4%	7	学園都市	37	2.8%
8	駅周辺商業	32	3.2%	8	交通アクセス	32	2.4%
9	商業施設	28	2.8%	9	著名芸能人の出身地	31	2.3%
10	公園	24	2.4%	10	武蔵野陵	25	1.9%
10	都心アクセス	24	2.4%	11	オリンパスホール	23	1.7%
12	都会と田舎の両面	21	2.1%	12	アウトレット	21	1.6%
13	買い物便利	19	1.9%	13	ラーメン	21	1.6%
14	町田駅	17	1.7%	14	商業施設	17	1.3%
15	国際版画美術館	16	1.6%	15	都心アクセス	16	1.2%
15	川	16	1.6%	16	ゆったり・ほっこり	15	1.1%
17	福祉	15	1.5%	17	物価	14	1.1%
18	図書館	14	1.4%	18	買い物便利	13	1.0%
19	子育て福祉	13	1.3%	19	住みやすさ	12	0.9%
19	市内で完結	13	1.3%	20	鉄道アクセス	11	0.8%
思い浮かばない／特にない 他		375	37.7%	思い浮かばない／特にない 他		445	33.7%

【所沢市民】 n=827				【柏市民】 n=997			
順	キーワード（集約化後）	件数	%	順	キーワード（集約化後）	件数	%
1	所沢航空記念公園	209	25.3%	1	柏レイソル	171	17.2%
2	メットライフドーム	92	11.1%	2	自然	56	5.6%
3	埼玉西武ライオンズ	76	9.2%	3	商業施設	42	4.2%
4	都心アクセス	52	6.3%	4	都心・東京アクセス	40	4.0%
5	自然	42	5.1%	5	柏の葉公園	34	3.4%
6	トトロの森	40	4.8%	6	高島屋	29	2.9%
7	交通の便	30	3.6%	7	手賀沼	27	2.7%
8	狭山湖・多摩湖	23	2.8%	7	東京大学・柏の葉キャンパス	27	2.7%
9	公園	22	2.7%	9	交通利便	24	2.4%
10	さくらニュータウン	19	2.3%	10	対東京立地	21	2.1%
10	ミューズ	19	2.3%	10	買い物便利	21	2.1%
12	西武園ゆうえんち	16	1.9%	12	柏駅	19	1.9%
13	グランエミオ	12	1.5%	13	祭り	18	1.8%
13	緑	12	1.5%	14	市内完結	17	1.7%
15	所沢駅ビル（再開発中）	10	1.2%	15	ららぽーと	16	1.6%
15	生活しやすい	10	1.2%	15	公園	16	1.6%
15	都会と田舎のバランス	10	1.2%	17	都会と田舎の両面	14	1.4%
18	治安が良い	9	1.1%	17	柏の葉キャンパス	14	1.4%
18	所沢祭り	9	1.1%	17	緑	14	1.4%
18	商業施設	9	1.1%	20	便利	13	1.3%
18	西武グループ	9	1.1%	思い浮かばない／特にない 他		381	38.2%
思い浮かばない／特にない 他		265	32.0%				

各都市における「自慢・誇りの施設、事柄、活動」の自由記述をそれぞれキーワード化³⁾して集計したものが図表 1 です。町田市を集計してみると、最も多かったのが「自然」(10.1%)、続いて「グランベリーパーク」(5.9%)、以下「緑・緑地」(4.7%)、「交通アクセス」(4.2%)、「町田 薬師池公園」(4.2%)と続きます。郊外型都市の 3 つの特徴である「自然」「商業施設」「交通アクセス」が現れており、町田市は郊外型都市の典型とも言えるでしょう。

しかし、他都市の第 1 位を比較してみると、町田市は「自然」(10.1%)、八王子市は「高尾山」(26.7%)、所沢市は「所沢航空記念公園」(25.3%)、柏市は「柏レイソル」(17.2%)となっています。町田市以外の各都市では、それぞれを回答した割合も 10%後半～20%台と高く、他都市にはその都市を代表する自慢・誇りが集中しています。町田市は自慢・誇りが集約化されていないというのが弱みといえることができるでしょう。しかし、住民の自慢・誇りとなるものが多様化しており、その多様性を受けとめているということが、町田市の強みになる可能性もあると考えることもできそうです。

2. 町田市現地視察(計 2 日)

町田市の地理的特性の把握やシナリオの作成に向けて、2020 年 10 月 28 日および 11 月 18 日の両日、町田市に赴いてフィールドを現地視察しました。視察場所は図表 2 の通りです。繁華街のある町田駅周辺だけではなく、ブランド調査において回答のあった自慢・誇りの場所・施設を中心に、実際に見て回りました。

図表 2 町田市現地視察

10 月 28 日視察 場所	ブランド調査で想起された言葉 (自慢できる施設等)	11 月 18 日視察 場所	ブランド調査で想起された言葉 (自慢できる施設等)
町田駅周辺	「109 がある」「駅回り店」「商業施設」「町田駅」	山崎団地	—
芹ヶ谷公園	「緑」「公園が多い」「自然と街の共存」「版画美術館」	野津田公園	「町田ゼルビア」「公園が多い」「野津田公園」
ウェルカムゲート	「自然(多い、豊 他)」「薬師池公園」「緑」「公園が多い」	小野路(里山交流館)	「自然」「里山」「緑道・遊歩道」
薬師池公園	「自然(多い、豊か 他)」「薬師池公園」「緑」「公園が多い」	奈良ばい谷戸	「自然」「里山」「緑道・遊歩道」
鶴川団地	—	鶴見川源流	「自然」「里山」「緑道・遊歩道」
金井(金井六丁目)	「閑静な住宅街」	小山ヶ丘	「自然」「里山」「緑道・遊歩道」
南町田グランベリーパーク	「グランベリーパーク」「商業施設」「駅回りの店」「都心へのアクセス」	大地沢青少年センター(境川源流)	「自然」「里山」「緑道・遊歩道」「境川」
		多摩境駅	「駅回りの店」「都心へのアクセス」

3. ワークショップ(計 2 回)による町田市における未来への分岐点(KDF)の検討

未来シナリオに繋がる仮説の材料を得るために、関連する担当部局に在籍する町田市職員も参加して、第 1 回目のワークショップを実施(2020 年 10 月 19 日)。それを受けて具体的

な未来シナリオを検討する第2回ワークショップを実施（2020年12月23日）しました。

未来シナリオは、不確実ではあるが仮に起きた場合、影響度の高いことを事前に考え、未来へ備えることを目的にしています。今回、町田市の職員に参加してもらったのは、今後各分野の計画や施策を検討する際の材料として、未来シナリオを活用してもらうことを期待しているためです。

PEST分析に基づく政治・法的要因(Political)、経済的要因(Economical)、社会・文化的要因(Socio-cultural)、技術的要因(Technological)の4つの領域の専門家ヒアリングと収集した各種情報から抽出したキーワードを参加者に提示し、キーワードの中からKDF(Key Driving Force: 未来への分岐点)を抽出し、未来シナリオの検討を進めました。町田市において、今後どのような環境変化が起こる可能性が高いのか、またその分岐点となるものはどのようなことになるのかを考察しています。

KDFを設定し、特に注視すべき事象（不確実性が高く、影響力の大きい）を中心に、具体的な未来シナリオを議論しています。ここでの議論が町田市未来シナリオ2050に反映されます。

◆「町田市未来都市研究2050」の全体概要◆

人口減少、人口構造の変化に伴い、生活関連サービス（小売・飲食・娯楽・医療機関等）の縮小、税収減による行政サービスの水準低下、地域コミュニティの機能低下等、様々な問題が懸念されています。

一方で、平成に入りテクノロジーの変化が加速し、この10年程度の間、スマートフォンが特に普及し、SNSを通じて世界中の様々な行動や価値観が可視化され、生活者の意識、行動に影響を与えています。今後より一層、テクノロジーの進化が、社会、生活者に影響を与えると考えられることから、今後起こりうる様々な問題の解決の糸口となるよう、テクノロジーを中心とした長期的な将来都市像の姿を描き、必要と考えられる都市戦略を検討することを目的としています。

従来、自治体ではフォアキャスティング的手法（過去のデータや実績から導かれるトレンドに基づいて将来を予測し、必要な対応策を考える方法）により、将来を予測し対応してきましたが、現在のような不確実な社会・経済情勢においては、将来を確実に予測することは難しくなっています。

そこで、町田市未来づくり研究所と未来都市研究機構では新たな手法として、不確実性を前提とし、複数の未来を想定したシナリオを作成し、シナリオに応じた都市戦略を描き出すシナリオプランニングの手法により、テクノロジーの進化を見据えた、2050年の町田市の都市像に関する研究を行っています。

注)

1) 郊外型都市として、東京駅から 30～40 km圏に所在し、人口規模、昼夜間人口比率などを考慮し選択。

2) 調査概要は、以下の通り。

調査対象： 町田市、および東京から 30～40 km圏の所在する 3 つの自治体の市民

調査手法： インターネット調査法

調査対象者： 20～74 歳の男女個人（調査協力モニター）

サンプル数： 4,141 サンプル

実施時期 2020 年 6 月 26 日～2020 年 7 月 6 日

3) キーワードは、同じ事柄でも単語や文章、誤謬があるものを正しい表記のものに修正の上、集計しています。

◆町田市全般に関する問い合わせ先：

町田市未来づくり研究所（政策経営部企画政策課内）

担当：野田

e-mail:m2ri[[@](mailto:m2ri@city.machida.tokyo.jp)]city.machida.tokyo.jp * [[@](mailto:m2ri@city.machida.tokyo.jp)]を@に変換ください。

◆研究内容に関する問い合わせ先：

東京都市大学 総合研究所 未来都市研究機構

担当：葉村真樹（機構長・総合研究所教授）、北見幸一(都市生活学部准教授)

e-mail: miraitoshi[[@](mailto:miraitoshi@tcu.ac.jp)]tcu.ac.jp * [[@](mailto:miraitoshi@tcu.ac.jp)]を@に変換ください。